

(参考様式4)

事業活用活性化計画目標評価報告書

活性化計画名	板室地区活性化計画			
計画主体名	計画主体コード	計画番号	計画期間	実施期間
栃木県 那須塩原市	90000 92134	1	平成22年度 平成26年度	平成22年度 平成25年度
活性化計画の区域				
栃木県那須塩原市板室地区				

1 事業活用活性化計画目標の達成状況

事業活用活性化計画目標	目標値A	実績値B	達成率(%) B/A	備考
交流人口の増加	293.97%	378.79%	128.85%	

(コメント)

吊橋や交流広場の整備により、交流イベント及び各種ツアーの充実が図られ、交流人口が増加した。

2 目標の達成のために実施した各事業の内容と効果

事業メニュー名	事業内容及び事業量		事業実施主体
地域資源活用総合交流促進施設	実施設計 一式 つり橋 L=48m 交流広場 A=1,299㎡ 四阿 3.0m×3.0m 1基 7.0m×7.0m 1基		那須塩原市
管理主体	事業着工年度	事業竣工年度	供用開始日
那須塩原市	平成22年度	平成25年度	平成25年7月13日
事業の効果			
交流広場や遊歩道の回遊性を高める吊橋の整備により、地域資源を活かしたイベント開催の場や観光拠点ができ、それを積極的に発信したことにより、改めて地域資源の魅力の再発見がなされ、交流人口が増加し、地域の活性化につながった。			

3 総合評価

(コメント)

整備した吊橋や交流広場を含む木の俣園地は、その溪流の美しさや季節折々の植物や大岩奇岩が織りなす景観を散策できる憩いの場として定着しつつある。ここを一つの拠点として地元産品や自然景観等の地域資源をPRしたことにより、地域全体の交流人口の増加が図られた。また、整備後も住民等による花木の植栽など、園地の魅力向上や活用に取り組んでおり、地域の活性化に寄与していると評価できる。

4 第三者の意見

(コメント)

記録的な暑さが続いた今年の夏は例年になく沢山の訪問者で賑わった。宿泊された方の中には、二日間続けて木の俣園地に足を運ばれた方もおり、「とても涼しく1日中過ごせて天国のようだったので来年も絶対来ます。」と大変喜んでおられた。

東日本大震災以前は夏休みが始まると先ず海へ行き、8月になると山へ来る方が多かったが、震災後は夏休み直後から清流で遊ぶ方が増えており、今年は想定以上の方が訪れた。

来場者が増えたことによりトイレとゴミの問題も出てきているが行政と話をしながら最善策を取ればと考えている。

沢山の訪問者が訪れる新しい交流施設ができ、地域の活性化に繋がっている。